

## 御殿内保育園の休止について（説明要旨）

### 【吉田地区で保育所の集約が必要な理由】

#### ◆ 児童数に対して施設が過剰になっている。

吉田地区では、昭和 55 年頃児童 600 人弱を保育するため 7 園整備（最後が御殿内）した頃をピークに、以降年々保育所入所児童は減少、現在では 200 人余りと当時の 4 割以下、保育所定員の半分以下となっています。

当時の状況と変わり、現在では明らかに施設の供給過剰となっており、今後増加する見込みは無いため、限られた財源を有効活用する上で、施設を集約する必要があります。（別紙 1 参照）

#### ◆ コストの適正負担

小さな保育所は、きめ細かく子どもを見られる長所はありますが、その分コストは余分にかかります。市全体で見ても、吉田は小規模園がたくさんあるため、児童 1 人あたりにかかるコストが他の地区に比べ多くかかっており、公平な保育サービスの観点からも見直しが必要です。

#### ◆ 保育の質の確保

小さな保育所は、きめ細かく子どもを見られる長所はありますが、その分子ども 1 人に対する保育士も多くなります。どうしても複数年齢の児童をまとめて見る場合が増え、年齢別の成長に応じた保育の実施が難しくなります。

また、子どもにとっても少人数より、ある程度の集団の中で育つ方が良いとも言われています。

ある程度の規模になれば、小規模園では難しかった早朝保育や居残り保育等に対しても柔軟な対応が図れます。

### 【集約の対象が御殿内保育園である理由】

#### ◆ 施設の配置バランスの観点

吉田には現在 5 つの小学校区があります。保育所の配置は小学校の通学区域とは関係ありませんが、6 つの保育所（立目除く）を 5 つに集約する場合に、小学校区を参考にすることで距離的な不均衡は避けることができます。実際に、御殿内保育園は吉田愛児園と最も近接していて、同一小学校区内です。

#### ◆ 施設のできた経緯

御殿内保育園は、昭和 52 年に吉田愛児園の入所児童が増えすぎたために、愛児園から分離する形で設立したものです。現在両方の園とも児童が減少し、現在は両方合わせても吉田愛児園の定員内で十分保育できます。

#### ◆ 園舎の耐震性（S52 建：旧基準（S45 の喜佐方も同様））

御殿内保育園は昭和 52 年建築で旧建築基準のため、耐震性に不安があります。吉田愛児園は平成元年に新基準による改築のため、耐震性の面では御殿内保育

園よりも安心です。

#### 【「廃止」でなく「休止」とする理由】

答申では「各小学校区1園（全5園）として当面の間経過を観察したうえで、さらなる統廃合の必要性について検討することが妥当」としており、吉田地区全体の将来的な保育所のあり方について検討するためにもある程度期間が必要であり、たちまち廃止とする必要性も見当たらないため、当面の間休止として、廃止の時期についてはいずれ決定するものとなりました。

#### 【質問に対する回答】

##### ◆方針決定の経緯について

決定が性急であり、決定に至るプロセスが不透明というご意見がありました。市としましては、平成22年度に宇和島市保育施設等長期整備計画を策定、23年度にアンケートを行い、さらに吉田地区保育所の具体的な統廃合について宇和島市子育て事業問題検討委員会に諮問、答申を得て市としての方針決定、24年度当初から説明会を開いて25年度末での休止についてご理解いただくようお願いして参りました。

決定から実施までの期間が短いのか、十分かにつきましてはご意見あるかどうかは思いますが、保育所配置の見直しは喫緊の課題であることと、ご意見等を踏まえて1年延長したことをご理解いただきたく思います。

##### ◆地震・津波等災害時の避難路について

津波が起きた際に、吉田愛児園では川に囲まれているので避難する際に危険だというご意見がありました。確かに愛児園と御殿内を比べた場合、津波から逃げることだけ想定すると、山に近い御殿内の方が避難には有利と思いますが、津波の前には地震があることを考えると、地震そのものに対する園舎の安全性は愛児園の方が高いと認められます。愛児園が津波の際に川に囲まれているので避難できないとすれば、愛児園の運営自体を考えなければなりません。現に生活者も多く自主防災組織もある地域ですので、津波の際にも園児が安全に避難できるよう対応を図りたいと考えます。

また、誤解の無いよう受け取っていただきたいのですが、保育所の選択は保護者の希望によるものですので、少しでも不安があれば安心のできる園を選んでいただくことも任意です。

#### 【最後に】

これは、双方から出た意見ですが、“子どもを真ん中に据えて”保育について考えるということが重要です。保護者の皆さんからすれば、少数で目の行き届いた保育、今までどおり近くにある保育園を希望されることでしょうか。行政か

らすれば、保育サービスを維持するために効果的かつ効率的運用を目指したいと考えます。

子どものために何が良いか？を一番に考えたときに、保育現場の園長先生が言われたように、『育っていくための力を養うこの時期に保育園で集団保育するにあたって、どんな環境が子どもの育ちに一番良いのか』という、難しいけれども重要な視点に立ち、何とぞご理解いただきますようお願いいたします。